

※表 3、4 は、製本されたものに印刷ミスがあったため、
修正したものを掲載した。

表 3 沿岸台地に出現した種の生活形組成

沿岸 生活形別出現種数	台地全体		東向き斜面		西向き斜面		南向き斜面		北向き斜面	
	平均値	構成比	平均値	構成比	平均値	構成比	平均値	構成比	平均値	構成比
照葉高木	3.7	9.7	2.4	11.3	4.3	7.9	3.2	11.1	4.5	9.8
照葉小高木	3.0	7.8	2.4	11.3	4.3	7.9	2.2	7.6	3.1	6.8
照葉低木	6.3	16.6	6.0	28.3	6.3	11.6	5.8	20.1	6.9	14.9
照葉ツル	2.9	7.5	1.8	8.5	2.5	4.6	2.6	9.0	3.9	8.4
針葉高木	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3
針葉小高木	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.5
地生シダ	0.7	1.9	1.0	4.7	1.0	1.9	0.4	1.4	0.6	1.4
着生シダ	0.3	0.8	0.0	0.0	0.5	0.9	0.2	0.7	0.5	1.1
腐生ラン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
多年草	1.5	4.0	1.2	5.7	1.3	2.3	1.2	4.2	2.0	4.3
腐生植物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
夏緑高木	3.4	8.9	1.6	7.5	6.0	11.1	1.8	6.3	4.1	8.9
夏緑小高木	1.5	3.8	0.0	0.0	3.8	6.9	0.6	2.1	1.8	3.8
夏緑低木	3.3	8.6	0.4	1.9	6.0	11.1	1.8	6.3	4.6	10.0
夏緑ツル	4.4	11.6	2.0	9.4	6.3	11.6	5.2	18.1	4.5	9.8
シダ	1.5	3.8	0.2	0.9	3.5	6.5	0.2	0.7	2.0	4.3
多年生草本	1.7	4.6	0.4	1.9	4.8	8.8	0.6	2.1	1.8	3.8
一年生草本	0.4	1.0	0.2	0.9	0.3	0.5	0.2	0.7	0.6	1.4
その他	3.4	9.0	1.6	7.5	3.5	6.5	2.8	9.7	4.9	10.6
照葉樹林構成種	18.5	48.7	14.8	69.8	20.0	37.0	15.6	54.2	21.9	47.4
その他構成種	19.5	51.3	6.4	30.2	34.0	63.0	13.2	45.8	24.3	52.6
合計	38.0		21.2		54.0		28.8		46.1	

表 4 内陸丘陵地に出現した種の生活形組成

内陸 生活形別出現種数	丘陵地全体		東向き斜面		西向き斜面		南向き斜面		北向き斜面	
	平均値	構成比	平均値	構成比	平均値	構成比	平均値	構成比	平均値	構成比
照葉高木	2.7	4.4	2.2	3.4	2.4	3.8	3.8	7.0	2.2	3.7
照葉小高木	1.4	2.2	2.2	3.4	0.6	0.9	1.8	3.3	0.8	1.4
照葉低木	4.5	7.4	4.6	7.0	4.4	7.0	4.8	8.9	4.0	6.8
照葉ツル	2.6	4.2	2.6	4.0	2.0	3.2	3.4	6.3	2.2	3.7
針葉高木	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
針葉小高木	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地生シダ	0.8	1.2	0.6	0.9	0.8	1.3	1.2	2.2	0.4	0.7
着生シダ	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.4	0.0	0.0
腐生ラン	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.4	0.0	0.0
多年草	3.3	5.4	3.8	5.8	3.2	5.1	3.0	5.6	3.0	5.1
腐生植物	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.4	0.0	0.0
夏緑高木	10.3	17.0	10.0	15.3	11.4	18.0	7.8	14.4	12.0	20.3
夏緑小高木	3.9	6.4	3.8	5.8	4.8	7.6	2.0	3.7	4.8	8.1
夏緑低木	9.1	15.1	9.8	15.0	12.0	19.0	6.0	11.1	8.6	14.5
夏緑ツル	7.6	12.5	8.8	13.5	8.2	13.0	6.8	12.6	6.4	10.8
シダ	2.1	3.4	2.2	3.4	1.4	2.2	2.2	4.1	2.4	4.1
多年生草本	7.5	12.4	8.8	13.5	7.4	11.7	5.6	10.4	8.2	13.9
一年生草本	1.2	1.9	1.4	2.1	1.6	2.5	0.8	1.5	0.8	1.4
その他	3.8	6.3	4.6	7.0	3.0	4.7	4.2	7.8	3.4	5.7
照葉樹林構成種	15.2	25.1	16.0	24.5	13.4	21.2	18.6	34.4	12.6	21.3
その他構成種	45.3	74.9	49.4	75.5	49.8	78.8	35.4	65.6	46.6	78.7
合計	60.5		65.4		63.2		54.0		59.2	

南向き斜面では少なかった。内陸丘陵地では、南向き斜面で若干種数が少なくなっていた。

次に、照葉樹林構成種とその他構成種の構成比と平均種数を斜面方位ごとに図 3 に示した。斜面方位の配列については、作成した組成表（表 2）から得られた群落区分が一部例外はあるものの斜面方位ごとにまとまっていたことから一定の規則性があると考え、その結果を反映させた。すなわち、沿岸台地の東・南・北・西向き斜面、内陸丘陵地の南・東・北・西向き斜面の順に配列した。

図 3 から、照葉樹林構成種とその他構成種の構成比が組成表の斜面方位配列と対応していることがわかった。すなわち、照葉樹林構成種は沿岸台地の東向き斜面から内陸丘陵地の西向き斜面に向けて構成比が減少するのに対し、その他構成種の構成比は増加していた。しかし、平均種数をみる

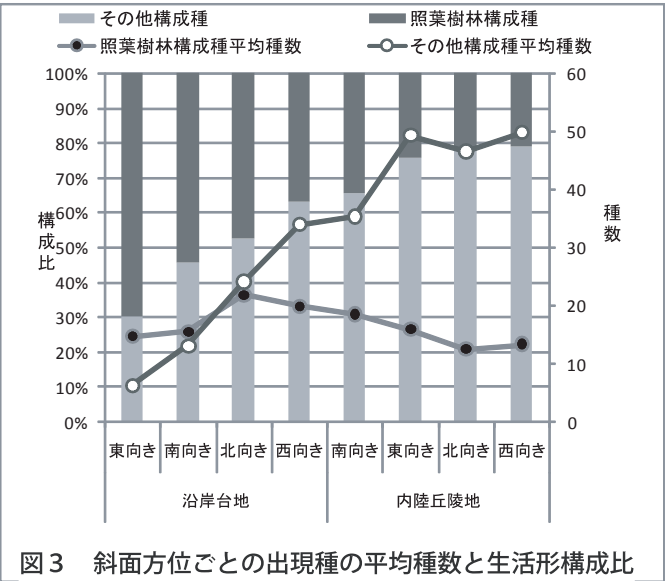


図 3 斜面方位ごとの出現種の平均種数と生活形構成比

と、照葉樹林構成種についてはほとんど横ばいであり全斜面で種数に大きな違いがみられないのに対して、その他構成種は構成比の傾向と同様に内陸丘陵地の西向き斜面に向けて種数が増加した。このように、沿岸台地の東向き斜面から内陸丘陵地の西向き斜面にかけて、照葉樹林構成種とその他構成種の構成比が増減していた。その他構成種の構成比が増加したのは、照葉樹林の種数がほぼ一定なのに対して、その他構成種の種数が増加したためである。

林分構造

胸高断面積合計（BA）

毎木調査で得られたDBHをもとに胸高断面積合計（BA）を算出し、調査地点出現したすべての木本種のBAを表 5 に示した。次に、照葉樹林構成種とその他構成種のそれぞれの中でBAの高かった上位 4 種を主要構成種として選び、それらのBAの平均値を沿岸台地と内陸丘陵地にわけて示した（図 4）。また、斜面方位ごとに主要構成種のBAの平均値を示した（図 5）。

沿岸台地では、照葉樹林の主要高木種であるスダジイとタブノキが非常に大きな値を示した。しかし、内陸丘陵地ではスダジイ・タブノキの低木層以上の個体はほとんど出現せず、コナラやシデ